

『スボーディニー』第七章試訳

A Translation of the Seventh Chapter of *Subodhinī*

眞鍋智裕、梶野歩夢、田中宏明

1. 序

本稿は、本誌前号に掲載された眞鍋他『『スボーディニー』第六章試訳』の続きであり、シュリーダラ・スヴァーミン（Śrīdhara Svāmin）による聖典『バガヴァッド・ギーター』（*Bhagavadgītā*, BhG）に対する註釈『スボーディニー』（*Subodhinī*, Su）のうちの BhG 第七章箇所を試訳である。本稿で提示したテキストや試訳に関する諸注記事項は前号と同じであるため、前号を参照されたい。

本稿においては、眞鍋の主宰している大学院生・学部生対象のサンスクリット文献読解のための勉強会の参加メンバーのうち、眞鍋の他、梶野（北海道大学大学院文学院修士課程）と田中（早稲田大学大学院文学研究科修士課程）が諸刊本の校合を行った⁽¹⁾。また前号とは異なり、今回は異読の拾い落としを防ぐため、それぞれの刊本のテキストを各々がチェックし、その成果を最終的にまとめてテキストを訂正した。最終的なテキストの選択決定は眞鍋の判断のもとで行ったのは前号と同じである。またテキストの訂正に応じて、眞鍋が訳も修正しな

がら本稿の試訳を作成したのも前号同様である。したがって、テキストに関しても試訳に関しても、最終的な文責は眞鍋にある。

2. テキストと試訳

シノプシス

1. 開始の頌
2. クリシュナ神による教示の開始
3. 理論知と実践知
4. バクティなしでは最高神に関する知は得がたい
5. 二つの原質
6. クリシュナ神が世界の創出・存続・破壊の原因である
7. 最高神を知る者と知らない者
8. どうして全生類がクリシュナ神のみに帰依しないのか
9. 四種のバクタたち
10. 最高神のバクタは非常に得難い
11. 他の神格のバクタたちは輪廻する
12. どうして全生類がクリシュナ神にバクティを捧げないのか
13. 他の神格のバクタたちの無知の原因
14. どのように最高神のバクタになるのか
15. 最高神のバクタたちは解脱に達する
16. 最高神のバクタたちにはヨーガからの脱落はない
17. 結頌

1. 開始の頌

vijñeyam ātmanas tattvaṃ sayogaṃ¹ samudāhṛtaṃ² /

bhajanīyam athedānīm aiśvaram rūpaṃ īryate //

知られるべきものであるアートマンに関する真実がヨーガと共に述べられた。また続いて、崇拜されるべき神的な姿が説かれる。

<note>

1 sayogaṃ BCP] saṃyogaṃ GK. 2 samudāhṛtaṃ BCGK] samudīritam P.

2. クリシュナ神による教示の開始（7.1）

pūrvādhyāyānte "madgatenāntarātmanā yo mām bhajate¹ sa me yuktatamo mataḥ" (≡ BhG 6.47) ity uktam, tatra kīdṛśas tvam yasya bhaktiḥ kartavyety ape-

kṣāyāṃ svasvarūpaṃ nirūpayiṣyan śrībhagavān uvāca – **mayy āsaktamānā** iti.²

前章の終わりで、「私に達した心によって私に仕える者が、最も専心した者であるという見解が私にある」と述べられた。ここで、バクティが為されるべきであるような貴方はどのような者であるのか、という[疑問に対する答えが]期待されるので、[主]自身の本質を明確にするために、聖なる主（クリシュナ）は述べた。私に対して思考器官を固定したと。

mayy āsaktamanāḥ pārtha yogaṃ yuñjan madāśrayaḥ /

asaṁśayaṁ samagraṁ mām yathā jñāsyasi tac chṛṇu // 1 //

プリターの息子（アルジュナ）よ、私に対して思考器官を固定し、私を拠所とし、ヨーガに専念すれば、あるあり方で〔貴方は〕疑いなく、完全に私を知るだろう、そのこと（疑いなく完全に私を知るあり方）を〔貴方は〕聞け。

mayi parameśvara āsaktam abhiniviṣṭam mano yasya saḥ. madāśrayo 'ham evāśrayo yasya, ananyaśaraṇaḥ saṁ **yogaṁ yuñjann** abhyasann **asaṁśayaṁ** yathā bhavaty evam, **mām samagraṁ** vibhūtibalaiśvaryādisahitam **yathā**³ **jñāsyasi tad** idam mayā vakṣyamāṇam **śṛṇu** // 1 //

その者に、私に、すなわち最高神に対して固定された、すなわち入り込んだ（没頭した）思考器官がある、そのような者が〔私に対して思考器官を固定した者であり〕、私を拠所とする者、すなわちその者にとって私のみが拠所であり、他に庇護所を持たない者であって、〔そのような者は〕ヨーガに専念すれば、すなわち〔ヨーガを〕繰り返せば、疑いなく、すなわちあるあり方であるところそのままに、私を完全に、すなわち示現、力、主宰力などと共に、あるあり方で知るだろう。そのこと、すなわちこの私によって述べられようとしていることを〔貴方は〕聞け。

<note>

1 bhajate BGKP] bhajati C. 2 mayi āsaktamānā iti BCGP] mayīti K. 3 yathā BGKP] yathā yena jñānena C.

3. 理論知と実践知（7.2）

vakṣyamāṇam stauti – **jñānam** iti.

述べられようとしていることを称える。理論知と。

jñānam te 'haṁ savijñānam idaṁ vakṣyāmy aśeṣataḥ /

yaj jñātvā neha bhūyo 'nyaj jñātavyam avaśiṣyate // 2 //

私は貴方に、それを知れば、この世でさらに他に知られるべきものが残されていないような、そのような理論知を実践知と共に残らず話すだろう。

jñānam śāstrīyaṁ vijñānam anubhavas tatsahitam, **idaṁ** madviṣayam. **aśeṣataḥ** sākalyena **vakṣyāmi**. **yaj jñātveha** śreyomārge vartamānasya punar **anyaj jñātavyam avaśiṣṭam na** bhavati. tenaiva kṛtārtho bhavatīty arthaḥ // 2 //

理論知とは、教示書に由来するものであり、実践知とは直接経験であり、それと共に [ということである]。これとは私（クリシュナ）を対象とするものである。[そのような理論知を] 残らず，すなわち完全に話すだろう。それを知れば、この世で，すなわち幸福の道において活動している者にとって、さらに他に知られるべきものが残されてはいないような。同じそれ（実践知と伴った理論知）によって、目的を達した者となる，という意味である。

4. バクティなしでは最高神に関する知は得がたい (7.3)

madbhaktim vinā tu majjñānam durlabham ity āha - **manuṣyāṇām** iti.

しかし、私（クリシュナ）へのバクティなしでは、私に関する知は得難い、ということを述べる。 人々のと。

manuṣyāṇām sahasreṣu kaścid yatati siddhaye /

yatatām api siddhānām kaścin mām vetti tattvataḥ // 3 //

何千という人々のうちで、ある者が達成のために努力する。努力している達成者たちのうちでも、ある者が私を真実に基づいて知る。

asamkhyātānām jīvānām madhye manuṣyavyatirikātānām śreyasi pravṛttir eva¹ nāsti. **manuṣyāṇām** tu **sahasreṣu** madhye **kaścid** eva prakṛṣṭapuṇyavaśāt **siddhaya** ātmajñānāya prayatate.² prayatnam kurvatām **api** sahasreṣu **kaścid** eva prakṛṣṭapuṇyavaśād³ ātmānam **vetti**. tādṛśānām cātmajñānasiddhānām sahasreṣu **kaścid** eva **mām** paramātmānam matprasādena **tattvato vetti**. tad evam atidurlabham⁴ api majjñānam⁵ tubhyam ahaṁ vakṣyāmīty arthaḥ // 3 //

数え切れない生き物たちのうちで、人間とは別のものたちが幸福に対して発動すること自体がない。一方、人々のうちの何千というもののなかで、ある者だけが、福德が増大することで、達成のために、すなわちアートマンの知のために努力する。努力を為している者たちの何千というもののうちでも、ある者だけが福德が増大することで、アー

トマンを知る。また以上のようなアートマンの知を実現した者たちのうちの何千というもののなかで、ある者だけが、私を、すなわち最高のアートマンを、私の恩寵によって、真実に基づいて知る。それゆえ、以上のように非常に得難いものであっても、私に関する知を貴方に私は述べるだろう、という意味である。

<note>

1 eva BCGP] eveha K. 2 prayatate BCK] yatate GP. 3 prakṛṣṭa° BCGP] prāktana° K. 4 atidurlabham BCGP] atidurlabham apy ātmataṭṭvam K. 5 maj-jñānaṃ BCGP] om. K.

5. 二つの原質（7.4-5）

evaṃ śrotāraṃ abhimukhīkṛtyedānīm prakṛtidvārā sṛṣṭyādikartṛtveneśvarataṭṭvaṃ pratijñātaṃ nirūpayiṣyan parāparabhedena prakṛtidvayaṃ āha - **bhūmir** iti dvyābhyām.¹

以上のように、聴衆に顔を向かせてから（興味を起こさせてから）、続いて、原質を通じて、創出等の行為主体としての主宰神の本質が認められることを明らかにするために、高位と低位との違いによって、二つの原質を、地〔等〕という二偈によって述べる。

bhūmir āpo 'nalo vāyuḥ khaṃ mano buddhir eva ca /

ahaṃkāra itīyaṃ me bhinnā prakṛtir aṣṭadhā // 4 //

地，水，火，風，虚空，思考器官，統覚器官，自我意識，とこのように，私の原質は八様に分かれている。

bhūmyādiśabdaiḥ² pañcagandhāditanmātrāṇy ucyante. **manaḥśabdena** tatkāraṇabhūto 'haṃkāraḥ, **buddhiśabdena** tatkāraṇabhūtaṃ³ mahattattvam, **ahaṃkāraśabdena** tatkāraṇam avidyety evaṃ **aṣṭadhā bhinnā**. yad vā **bhūmyādiśabdaiḥ** pañcamahābhūtāni sūkṣmaiḥ sahaikīkṛtya gṛhyante. **ahaṃkāraśabdena**ivāhaṃkāras tenaiva tatkāryāṇīndriyāṇy api gṛhyante. **buddhir** iti mahattattvam, **manaḥśabdena** tu⁴ manasaivonneyam avyaktarūpaṃ⁵ pradhānam ity anena prakāreṇa **me prakṛtiḥ** māyākyā śaktir **aṣṭadhā bhinnā** vibhāgaṃ prāptā. caturviṃśatibhedabhinnāpy aṣṭasv evānyāntarbhāvavivakṣayā**aṣṭadhā**⁶ **bhinnety** uktam. tathā ca vakṣyamāṇakṣetrādhyāya imām eva prakṛtiṃ caturviṃśatitattvātmanā prapañcayisyati –

mahābhūtāny ahaṃkāro buddhir avyaktam eva ca /

indriyāṇi daśaikaṃ ca pañca cendriyagocarāḥ // BhG 13.5 //

iti // 4 //

地等という諸語によって，五つの，香り等という微細元素が述べられている．思考器官という語によって，その原因である自我意識が〔述べられている〕．統覚器官という語によって，その原因である大原理が〔述べられている〕．自我意識という語によって，その原因である無明が〔述べられている〕と，以上のように八様に分かれている．あるいはまた，地等という諸語によって，五大元素が，微細〔元素〕と一緒に把握される．他ならぬ自我意識という語によって，自我意識，同じそれと〔共に〕その結果である諸々の器官も把握され

る。統覚器官とは大原理である。一方、思考器官という語によって、同じ思考器官から推理される未顕現者をあり方とする根本物質が〔把握される〕と、このようなあり方で、私の原質、すなわちマーヤーと呼ばれる能力は八様に分かれている、すなわち区分を得ている。二十四の違いによって分かれていても、八つのみに他のもの〔十六のもの〕が含まれることを述べようとして、八様に分かれている、と述べられた。また同様に、後に述べられる田地章において、同じこの原質を、二十四原理を本性とするものとして〔クリシュナ神は〕詳説するであろう。

〔五つの〕大元素，自我意識，統覚器官，そして未顕現者，十の諸器官と一〔思考器官〕，また五つの感官の対象領域と。

<note>

1 āha bhūmir iti dvābhyām BGKP] āha dvābhyām. bhūmir iti C. 2 bhūmyādisabdaiḥ BCGP] bhūmyādīni pañcabhūtasūkṣmāni. bhūmyādisabdaiḥ K. 3 tatkāraṇabhūtaṃ BG] tatkāraṇaṃ CKP. 4 tu CKP] om. BG. 5 °rūpaṃ BCGP] °svarūpaṃ K. 6 °ānyāntarbhāva° CP] °āntarbhāva° BGK.

aparām imāṃ prakṛtiṃ upasaṃharan parām prakṛtiṃ āha - **apareti**.¹

低位のこの原質をまとめつつ，高位の原質を述べる。低位のと。

apareyam itas tv anyāṃ prakṛtiṃ viddhi me parām /

jīvabhūtām mahābāho yayedam dhāryate jagat // 5 //

これは低位の〔原質〕である。しかし、これよりも高位の、別の、
個我である、私の原質を〔貴方は〕知れ。豪腕者よ。それによっ
てこの世界が保持されているような。

aṣṭadhoktā² yā prakṛtir³ iyam aparā nikṛṣṭā, jaḍatvāt parārthatvāc ca. itaḥ sakā-
śāt **parām** prakṛṣṭām **anyām**⁴ **jīvabhūtām** jīvasvarūpām⁵ **me prakṛtiṃ viddhi**
jānīhi. paratve hetuḥ - **yayā** cetanayā kṣetrajñarūpayā⁶ svakarmadvāreṇ**edam-**
jagad dhāryate // 5 //

八様の上述の原質、これは低位のもの、すなわち低劣なものである。
無感覚なものであるから、また他のためのものであるから。これより
も高位の、すなわち上位の、別の、個我である、すなわち個我を本質
とする、私の原質を知れ、すなわち認識せよ。高位のものであること
に対する根拠は〔以下のような〕。それ、すなわち田地を知るもの
をあり方とする精神的なものによって、〔そのもの〕自らの行為を通じて
この世界が保持されているような。

<note>

1 apareti BCGP] apareyam iti K. 2 aṣṭadhoktā BCGP] aṣṭadhā K. 3 prakṛtir
BCGP] prakṛtir uktā K. 4 anyām BCGP] anyā K. 5 jīvabhūtām jīvasvarūp-
ām G] jīvasvarūpām BC, jīvarūpām jīvasvarūpām K, jīvabhūtām P. 6 °rūpa-
yā BCGP] °svarūpayā K.

6. クリシュナ神が世界の創出・存続・破壊の原因である（7.6-12）

anayoḥ prakṛtitvaṃ darśayan svasya taddvārā sṛṣṭyādikāraṇatvaṃ āha –
両者が原質であることを示しつつ、[クリシュナ神] 自身が、それら
（二種の原質）を通じて創出等の原因であることを述べる。

etadyonīni bhūtāni sarvāṇīty upadhāraya /

aham kṛtsnasya jagataḥ prabhavaḥ pralayaḥ tathā // 6 //

全てのものはこれらを母胎とする、と[お前は]理解せよ。私は
全ての世界の起源であり、同様に帰滅である。

etad iti. **ete** kṣetrakṣetrajañārūpe¹ prakṛtī² **yonī** kāraṇabhūte yeśāṃ tāny **etad-**
yonīni. sthāvara jaṅgamātmakāni **sarvāṇi bhūtānīty upadhāraya** budhyasva. tatra
jaḍā prakṛtir deharūpeṇa pariṇamate. cetanā tu madamśabhūtā bhoktṛtvena de-
heṣu praviśya svakarmanā tāni dhārayati. te ca madīye prakṛtī³ mattaḥ sambhū-
te. ato '**ham** eva **kṛtsnasya** saprakṛtikasya **jagataḥ prabhavaḥ**. prakarṣeṇa bha-
vaty asmād iti **prabhavaḥ**. paraṃ kāraṇam aham ity arthaḥ. **tathā** pralīyate
'neneti **pralayaḥ**. saṃhartāpy **aham** eveti bhāvaḥ⁴ // 6 //

これ[以下を註釈する]。それらに、これらの田地と田地を知るものを
あり方とする原質である母胎，すなわち原因であるものがあるような、
そのようなものがこれらを母体とするものである。植物と動物を本性
とする全てのものは〔これらを母体とする〕と理解せよ，すなわち知
れ。このうち、無感覚な原質は、身体をあり方として転変する。一方、
私の部分である精神的なものは、享受主体として身体に入り込んでか

ら、自らの行為によってそれら（全てのもの）を保持する。そして、これら私の〔二つの〕原質は、私から生じたものである。したがって、私こそが全ての、すなわち原質を伴った世界の起源である。これから増大して生じるという意味で起源である。私が最高の原因である、という意味である。同様に、これによって帰滅するという意味で帰滅である。私こそが破壊者でもある、ということである。

<note>

1 °rūpe BCGP] °svarūpe K. 2 prakṛtī BCGP] prakṛti K. 3 prakṛtī BCGP]
prakṛti K. 4 bhāvaḥ BCG] arthaḥ KP.

yasmād evaṃ tasmāt –

以上のようなので、それ故に、

mattaḥ parataraṃ nānyat kiṃcid asti dhanamjaya /

mayi sarvam idaṃ protaṃ sūtre maṇigaṇā iva // 7 //

私よりも他に優れたものは如何なるものもない。財を勝ち得た者（アルジュナ）よ。この全ては私に繋がれている。宝玉の群れが糸に〔繋がれている〕ように。

matta iti. **mattaḥ** sakāśāt **parataraṃ** śreṣṭhaṃ jagataḥ sṛṣṭisaṃhārayoḥ svatantraṃ kāraṇaṃ **kiṃcid** api **nāsti**. sthithetur apy aham evety āha – **mayī**ti. **mayi sarvam idaṃ jagat protaṃ** grathitam, āśritam ity arthaḥ. dṛṣṭāntaḥ spaṣṭaḥ

//7 //

私より [以下を註釈する]。私よりも優れたもの，すなわち至上のもの，世界の創出と破壊に関する自律的な原因は，いかなるものも存在しない。同じ私が存続の原因でもある，ということを述べる。私に，と。この全ての世界は，私に繋がれている，編まれている。依存している，という意味である。実例は[意味は]明瞭である。

jagataḥ sthitihetutvam¹ prapañcayati – **raso 'ham** iti pañcabhiḥ.²

[クリシュナ神が] 世界の存続の原因であることを，私は味である
[等] という五 [偈] によって詳説する。

raso 'ham apsu kaunteya prabhāsmi śāśisūryayoḥ /

praṇavaḥ sarvavedeṣu śabdaḥ khe pauraṣaṁ nṛṣu // 8 //

私は、水における味である。クンティの息子（アルジュナ）よ。

[私は] 月と太陽における輝きである。[私は] 全てのヴェーダにおける聖音であり、虚空における音声、人々における活力である。

apsu raso 'ham, rasatanmātrarūpayā³ vibhūtyā⁴ tadāśrayatvenāpsu⁵ sthito
'ham ity arthaḥ. tathā śāśisūryayoḥ **prabhāsmi**, candre 'rke⁶ ca prakāśarūpayā vi-
bhūtyā tadāśrayatvena sthito **'ham** ity arthaḥ. evaṁ⁷ uttaratrāpi⁸ draṣṭavyam.
sarveṣu vedeṣu vaikhārīrūpeṣu tanmūlabhūtaḥ **praṇava** oṃkāro 'smi. **kha** ākā-
śe **śabdatanmātrarūpo**⁹ 'smi. **nṛṣu** puruṣeṣu **pauraṣaṁ** udyamo 'smi. udyame
hi puruṣās tiṣṭhanti // 8 //

私は、水における味である。私は、味という微細元素をあり方とする示現によって、その拠り所として水の中にとどまっている，という意味である。同様に，[私は] 月と太陽における輝きである。私は、月と太陽において、輝きをあり方とする示現によって、それらの拠り所としてとどまっている，という意味である。後[の例]も同様に見られるべきである。[私は] 全てのヴェーダにおける，すなわち発話をあり方とするものにおける，その根源である聖音，すなわちオーム音である。[私は] 虚空，すなわち虚空における音声という微細元素をあり方とするものである。[私は] 人々，すなわち人間たちにおける活力，すなわち積極性である。というのは，積極性において人間たちはとどまっているから。

<note>

1 jagataḥ sthitihetutvaṃ BCGP] jagatsthitihetutvaṃ eva K. 2 prapañcayati raso 'ham iti pañcabhiḥ BGKP] prapañcayati pañcabhiḥ. raso 'ham iti C. 3 °rūpayā BCGP] °svarūpayā K. 4 vibhūtyā BCGP] vibhūtā K. 5 tadāśrayatvenā° BCGP] āśrayatvenā° K. 6 'rke BCGP] sūrye K. 7 evam BCGP] anyatrāpy evam K. 8 uttaratrāpi BCGP] om. K. 9 śabdatanmātrarūpo BGKP] śabdas tanmātrarūpo C.

kiṃ ca –

さらに、

puṇyo gandhaḥ pṛthivyām ca tejaś cāsmi vibhāvasau /

jīvanam sarvabhūteṣu tapaś cāsmi tapasviṣu // 9 //

また〔私は〕地における良い香りであり、また火（光を住居とするもの）における光輝であり、また全ての生類における活力（生命）であり、苦行者たちにおける苦行である。

puṇya iti. **puṇyo** 'vikṛto **gandhaḥ**. **gandhatanmātram pṛthivyā** āśrayabhūtam¹

aham ity arthaḥ. yad vā vibhūtirūpenāśrayatvasya vivakṣitatvāt surabhigandhas

yaivotkrṣṭatayā vibhūtitvāt **puṇyo gandha** ity uktam. tathā **vibhāvasāv** agnau

yat **tejaḥ** saha²jā² dīptis tad aham. **sarvabhūteṣu jīvanam** prāṇadhāraṇam.³

āyur aham ity arthaḥ. **tapasviṣu** vānaprasthādiṣu dvandvasahanarūpam **tapo**

'smi // 9 //

良い〔以下を註釈する〕. 〔私は〕 良い, すなわち無変化の（純粋な、そのままの）香りである。私は、地にとって拠り所である香りという微細元素である、という意味である。あるいはまた、示現をあり方とすることで拠り所であることが述べられようとしているから、甘い香りこそが、卓越したものとして〔私の〕示現であるから、良い香りである、と述べられた。同様に、光を住居とするもの、すなわち火における光輝、すなわち自然な光明、私はそれである。〔私は〕 全ての生類における活力（生命）、すなわち呼吸の保持である。私は命である、という意味である。〔私は〕 苦行者たち、すなわち林住期の者などにおける、一対のものに耐えることをあり方とする苦行である。

<note>

1 pṛthivyā āśraya° BCGP] pṛthivyāśraya° K. 2 sahaajā BCGP] duḥsaha K. 3
°dhāraṇam BCGP] °dhāraṇav K.

kiṃ ca –

さらに、

bījaṃ māṃ sarvabhūtānāṃ viddhi pārtha sanātanam /

buddhir buddhimatām asmi tejas tejasvinām aham // 10 //

プリターの息子よ、私を全ての生類の永遠の種子であると知れ。

私は、知者たちの知であり、威光ある者たちの威光である。

bījaṃ iti. sarveṣāṃ carācarāṇāṃ **bhūtānāṃ bījaṃ** sajātīyakāryotpādanasāma-
rthyam, **sanātanam**¹ nityam uttarottarasarvakāryeṣv anusyūtam. tad eva **bījaṃ**
madvibhūtiṃ viddhi. na tu prativyakti vinaśyat.² tathā **buddhimatām buddh-**
iḥ prajñāham asmi. tejasvinām³ pragalbhānām⁴ **tejaḥ prāgalbhyam aham** // 1
0 //

種子 [以下を註釈する]. 全ての、すなわち動不動の生類の種子、すな
わち同類の結果を生み出す能力である。永遠の、すなわち常住で、そ
れぞれ後の全ての結果に織り込まれたものである。同じその種子を、
私の示現であると知れ。しかし、[その種子は] 個物毎に破壊されるも
のではない。同様に、私は知者たちの知、すなわち叡知である。私は、
威光ある者たち、すなわち威厳ある者たちの威光、すなわち威厳であ
る。

<note>

1 sanātanam BCGP] om. K. 2 prativyakti vinaśyat BCGP] prakṛtivyaktir iva
naśyat K. 3 tejasvinām BCGP] tejasvinā K. 4 pragalbhānām CGKP] om. B.

kiṃ ca –

さらに、

balam balavatām cāham kāmarāgavivarjitaṃ /

dharmāviruddho bhūteṣu kāmo 'smi bharatarṣabha // 11 //

また、私は力有る者たちの欲望と愛着を離れた力である。[私は]
生類たちにおける、規範と矛盾しない欲望である。バラタの牡牛
(アルジュナ) よ。

balam iti. **kāmo** 'prāpte vastuny¹ abhilāṣo rājasah. **rāgaḥ** punar abhilaṣite 'rthe
prāpte 'pi punar adhike 'rthe cittarañjanātmakas tṛṣṇāparaparyāyas² tāmasah.

tābhyām **vivarjitaṃ balavatām balam aham³ asmi**. sātṭvikaṃ svadharmānu-
ṣṭhānasāmarthyam aham ity arthaḥ. svadharṃeṇā**viruddhaḥ⁴** svadāreṣu putro-
tpattimātropayogī⁵ **kāmo 'ham** // 11 //

力 [以下を註釈する]. 欲望とは、得られていない実在に対する激質的
な欲である。さらに愛着とは、望まれた対象が得られた場合でも、さ
らに多くの対象に対して心が執着することを本性とする、暗質的な、
渴望という他のものとの同義語である。私は、力有る者たちの、それ

ら（欲望と愛着）を離れた力である。私は、純質的な、自身の規範を遂行する能力である、という意味である。私は、自身の規範と矛盾しない、自身の妻たちに対する、単に息子の誕生に裨益する欲望である。

<note>

1 'prāpte vastuny BCGP] prāpteṣu vastuṣv K. 2 tṛṣṇāparaparyāyas BCGP] tṛṣṇāparyāyas K. 3 ahaṃ CGP] om. BK. 4 svadharmenā° BCGP] dharmenā° K. 5 putrotpatti° BCGP] putropādana° K.

kiṃ ca –

さらに、

ye caiva sāttvikā bhāvā rājasās tāmasās ca ye /

matta eveti tāt viddhi na tv ahaṃ teṣu te mayi // 12 //

また、純質的な諸状態、激質的な [諸状態]、また暗質的な [諸状態]、それらを私のみから [生じる] と知れ。私はそれらにおいては [存在し] ないが、それらが私のなかに [ある]。

ye ceti.¹ ye cānye 'pi sāttvikā bhāvāḥ śamadamādayaḥ, rājasās ca dveṣadarpādayaḥ,² tāmasās ca ye³ śokamohādayaḥ, prāṇinām⁴ svakarmavaśāj jāyante, tāt sarvān matta eva⁵ jātāt itī viddhi. madīyaprakṛtiḡuṇatrayakāryatvāt.⁶

evam api teṣv ahaṃ na varte. jīvavat tadadhīno 'haṃ na bhavāmīty arthaḥ. te tu madadhīnāḥ santo mayi vartanta ity arthaḥ // 12 //

また、ある諸々のもの [以下を註釈する]。 また、ある諸々のもので、

〔先ほどとは〕別のものであっても、純質的な状態，すなわち静穏・自制など，また激質的な〔状態〕，すなわち嫌悪や自尊心など，また暗質的な〔状態〕，すなわち憂いや迷いなどが，生類の自らの行為から生じる場合，それらを全て私のみから生じたものと知れ．私の原質の三属性の結果であるから．以上のものであっても，それらにおいて私は存在しない．個我のように，私はそれらに依存するものではない，という意味である．しかし，それらは私に依存するものであって，私のなかに存在する，という意味である．

<note>

1 ye ceti BCGP] ye caiveti K. 2 dveṣa° BG] harṣa° CKP. 3 ye CGKP] om. B. 4 prāṇinām BCGP] prāṇināḥ K. 5 eva BCGP] evaṃ K. 6 °guṇatraya° B GK] °guṇa° CP.

7. 最高神を知る者と知らない者（7.13-14）

evambhūtaṃ tvāṃ parameśvaram ayaṃ janaḥ kim iti na jānātīty ata āha – **tribhir** iti.

【問】以上のようなものであり最高神である貴方を，この生類はなぜ知らないのか，という〔問いがあるので〕【答】それゆえに答える．三つと．

tribhir guṇamayair bhāvair ebhiḥ sarvaṃ idaṃ jagat /

mohitaṃ nābhijānāti mām ebhyaḥ param avyayam // 13 //

これら三つの属性から成る諸の状態によって、この世界の全ては迷わされており、これらとは別の、不変の私を知らない。

tribhis trividhair ebhiḥ pūrvoktair guṇamayaiḥ¹ kāmalobhādibhir² guṇavikā-
rair³ bhāvaiḥ svabhāvair mohitaṃ idaṃ jagat. ato mām nābhijānāti. katham-
bhūtam. ebhyaḥ bhāvebhyaḥ param. ebhir asaṃsprṣtam eteṣāṃ niyantāram. ata
evāvyaṃ. nirvikāram ity arthaḥ // 13 //

これら、すなわち先述の三つの、すなわち三種の属性から成る、すな
わち欲望や貪りなどという属性の諸変容という諸の状態、すなわち諸
の本質によって、この世界は迷わされている。したがって、[この世界
は] 私を知らない。[私とは] どのようなものか。これら諸状態とは別
のもの、である。これらには触れない、これらの制御者を、というこ
とである。同じ理由で、不変なもの、ということである。変容を欠い
たもの、という意味である。

<note>

1 guṇamayaiḥ BCGK] kāmalobhādibhir guṇamayair P. 2 kāmalobhādibhir
BCGK] om. P. 3 guṇavikārait BGKP] guṇamayair guṇavikārait C.

ke tarhi tvāṃ jānantītya ata āha – daivī hīti.¹

【問】そうであれば、誰が貴方を知るのか、という [問があるので]

【答】それゆえに答える。実に、神的なと。

daivī hy eṣā guṇamayī mama māyā duratyayā /
mām eva ye prapadyante māyām etām taranti te // 14 //

実に、私の、この神的な、属性から成る幻力は超え難いので、私
のみに帰依する者たちは、この幻力を越える。

daivy alaukikī. atyadbhutety arthaḥ. **guṇamayī** sattvādiguṇavikārātmikā. **ma-**
ma parameśvarasya śaktir **māyā duratyayā** dustarā. **hi** prasiddham etat. tathā-
pi **ye mām evety**² evakāreṇāvyaḥhāṇyā³ bhaktyā **prapadyante** bhajanti **te**
māyām etām dustarām⁴ api **taranti**. tato mām jānantīti bhāvaḥ // 14 //

神的な、とは非世間的な、ということである。非常に素晴らしい、と
いう意味である。属性から成る、とは純質などという属性の変容を本
性とするものである。私の、すなわち最高神の能力である幻力（マー
ヤー）は超え難い、すなわち克服し難い。実に、とはこれは周知され
ている、ということである。そのようであっても、その者たちが私の
みに、と「のみ」音 [があること] によって、なくなるバクティ
によって帰依する、すなわち仕える、そのような者たちはこの幻力を、
克服し難くとも越える。それから私を知る、ということである。

<note>

1 daivī hīti BCGP] daivīti K. 2 evety BCGK] om. P. 3 evakāreṇā° BGK] e
vā° CP. 4 dustarām BCGP] sudustarām K.

8. どうして全生類がクリシュナ神のみに帰依しないのか (7.15)

kim¹ iti tarhi sarve tvām eva na bhajanti. tatrāha² – **na mām** iti.

【問】 そうだとすると、 どうして全ての者たちが貴方だけに仕えないのか。 【答】 この点に対して答える。 私に「帰依し」ないと。

na mām duṣkṛtino mūḍhāḥ prapadyante narādhamāḥ /

māyayāpahṛtajñānā āsuram bhāvam āśritāḥ // 15 //

悪を為す、迷った人間の低位の者たちは、私に帰依しない。幻力（マーヤー）によって知性を奪われた者たちは、アスラ的な状態に依存する。

naresu ye 'dhamās te mām na prapadyante na bhajanti. adhamatve hetuḥ – mūḍhā vivekaśūnyāḥ. tat kutaḥ. duṣkṛtinaḥ pāpasilāḥ, ato māyayāpahṛtam nirastam śāstrācāryopadeśabhyām jātam api jñānam yeṣāṃ te tathā.³ ata eva "dambho darpo 'bhimānaś ca krodhaḥ pārūṣyam eva ca" (BhG 16.4) ityādinā vakṣyamāṇam āsuram bhāvam svabhāvam prāptāḥ santo na mām⁴ bhajanti // 15 //

人々のうちの低位の者たち、彼らは私に帰依しない、すなわち仕えない。低位であることに対する理由は「以下のものである」。迷った者たち、すなわち識別を欠いた者たち「であるからである」。それはどうか。悪を為す者たち、すなわち罪惡を性向とする者たち「であるからである」。したがって、その者たちに関して、教示書や先生の教示から生じたとしても、知が幻力によって奪われている、すなわち取り除

かれている，そのような者たちがそのようである．同じ理由で，[彼らは]「詐欺，自尊心，高慢，瞋恚，粗暴」などと述べられようとしているアスラ的な状態，すなわち [アスラ的な] 本質を得た者たちであつて，私に仕えない．

<note>

1 kim BCGP] yady evaṃ kim K. 2 tatrāha BCGP] ity ata āha K. 3 tathā B CGK] om. P. 4 mām BCGK] om. P.

9. 四種のバクタたち (7.16-18)

sukṛtinas tu mām bhajanti.¹ te ca sukṛtatāratamyena caturvidhā ity āha – **caturvidhā** iti.

しかし，善を為す者たちが，私に仕える．そして彼らは，善の程度によって四種である，ということを述べる．四種と．

caturvidhā bhajante mām janāḥ sukṛtino 'rjuna /

ārto jijñāsur arthārthī jñānī ca bharataṣabha // 16 //

四種の善を為す者たちが私に仕える．アルジュナよ．思い悩んだ者と知ろうと望んでいる者と利益を求めている者と知者とである．バラタの牡牛よ．

pūrvajanmasu ye kṛtapuṇyā janās² te **mām bhajanti**, te³ **caturvidhāḥ**. ārto rogādyabhibhūtaḥ. sa yadi pūrvam kṛtapuṇyas tarhi mām bhajati, anyathā kṣu-

dradevatābhajanena saṃsarati. evam uttaratrāpi draṣṭavyam. **jījñāsur** ātmajñāne-
cchuḥ. **arthārthī**, atra vā⁴ paratra vā bhogasāadhanabhūtārthalipsuḥ.⁵ **jñānī** cā-
tmavit // 16 //

以前の諸の生において善を為した生類たちは、私に仕える。彼らは四種である。思い悩んだ者とは、病気等に圧倒された者である。もしも、彼が以前に善を為した者であれば、その場合、[彼は] 私に仕える。そうでなければ、[彼は] つまらない神格に仕えることで輪廻する。後の[三つの] 場合でも同様に見られるべきである。知ろうと望んでいる者は、自身の知を望んでいる者である。利益を求めている者とは、ここで、あるいは別のところで、享受の手段である利益を得ようと望む者である。また知者とは自身を知る者である。

<note>

1 bhajanti BCGP] bhajanty eva K. 2 janās BCGP] om. K. 3 te KP] te tu B
CG. 4 vā BCGP] om. K. 5 °lipsuḥ BCGP] °prepsuḥ K.

eteṣāṃ¹ madhye jñānī śreṣṭha ity āha – **teṣāṃ** iti.

彼らのなかで、知者が最も優れている、ということを述べる。彼らのうちと。

teṣāṃ jñānī nityayukta ekabhaktir viśiṣyate /

priyo hi jñānino 'tyartham ahaṃ sa ca mama priyaḥ // 17 //

彼らのうち、常に専心した、専一なバクティを持つ知者が勝れて

いる．というのは、知者にとって、私はこの上なく愛しいから．
また、彼は私にとって [この上なく] 愛しい．

teṣāṃ madhye **jñānī viśiṣṭaḥ**. atra² hetavaḥ – **nityayuktaḥ** sadā manniṣṭhaḥ. **e-**
kasmin mayy eva **bhaktir** yasya saḥ. jñānino dehādyabhimānābhāvena citta-
vikṣepābhāvān nityayuktatvam ekāntabhaktiś³ ca saṃbhavati nānyasya. ata eva
hi⁴ tasyāham atyantam priyaḥ. **sa ca mama**. tasmād etair nityayuktatvādibhiś
caturbhir hetubhiḥ sa uttama ity arthaḥ // 17 //

彼らのなかで、知者が優れたものである．この点に対する諸の理由は
[以下のものである]．常に専心した者，すなわち常に私に専念した者
[であるから]．一人，すなわち私のみに対するバクティを持つもの
[であるから]．知者には、身体などを私と思ひなすことがないので、
心の散乱がないので、常に専心したものであることと絶対的なバクテ
ィが可能であり、他の者には[可能では]ない．同じ理由で、彼にと
って私はこの上なく愛しいから．また、彼は私にとって [この上なく
愛しい]．それゆえに、これら常に専心した者であることなどという四
つの理由（身体を私と思ひなすことがないこと、心の散乱がないこと、
常に専心していること、専一なバクティを持つこと）によって、彼は
最高の者である、という意味である．

<note>

1 eṭeṣāṃ BCG] teṣāṃ KP. 2 atra GPK] tatra BC. 3 ekāntabhaktiś CP] ekā-
ntabhaktitvam BGK. 4 hi BCGP] om. K.

tarhi kim¹ itare trayas tvadbhaktāḥ² saṃsaranti. na hi na hīty āha – **udārā** iti.

【問】 その場合、他の三〔種〕の貴方のバクタたちは輪廻するののか。

【答】 決してそうではない、ということを述べる。 気高いと。

udārāḥ sarva evaite jñānī tv ātmaiva me matam /

āsthitaḥ sa hi yuktātmā mām evānuttamāṃ gatim // 18 //

彼らまったく全ての者たちは気高い。しかし、知者は自身そのものであるという見解が私にある。というのは、彼は専心した者であり、至上の境地である私のみに依拠した者であるから。

sarve 'py eta **udārā** mahāntaḥ. mokṣabhāja evety arthaḥ. **jñānī**³ punar **ātmai-**
veti me matam niścayaḥ. **hi** yasmāt **sa jñānī yuktātmā** madekacittaḥ san, na
vidyata uttamā yasyās tām **anuttamāṃ** sarvottamāṃ **gatim mām evāsthita** āśri-
tavān. madvyatiriktam anyat phalaṃ na manyata ity arthaḥ // 18 //

彼ら全てのもの皆が気高い、すなわち偉大である。解脱を享受する者たちに他ならない、という意味である。一方、知者は自身そのものである、という見解、すなわち確定が私にある。 というのは、すなわちなぜなら、彼、すなわち知者は専心した者、すなわち私だけへの心を持つ者であって、上位者がいないような、そのような至上の、すなわち全てのもののうちで最高の境地である私のみに依拠した者、すなわち依存した者であるから。私とは別に、他の果報を望まない、という意味である。

<note>

1 kim BCGP] om. K. 2 tvadbhaktāḥ BCGP] tvadbhaktāḥ kiṃ K. 3 jñānī BCGP] jñānī tu K.

10. 最高神のバクタは非常に得難い（7.19）

evambhūto madbhakto 'tidurlabha ity āha – **bahūnām** iti.

以上のような私のバクタは、非常に獲得し難い、ということを述べる。多くのと。

bahūnām janmanām ante jñānavān mām prapadyate /

vāsudevaḥ sarvam iti sa mahātmā sudurlabhaḥ // 19 //

多くの生の最後に、知を持つ者は、「全てはヴァースデーヴァである」と〔見ることで〕私に帰依する。そのような偉大な者は、非常に得難い。

bahūnām janmanām¹ kiṃcit kiṃcit puṇyopacayenānte carame janmani **jñānavān**² **sarvam** idaṃ carācaram **vāsudeva** eveti³ sarvātmadṛṣṭyā **mām prapadyate** bhajati. ataḥ **sa mahātmā** paricchinnaḍṛṣṭiḥ **sudurlabhaḥ** // 19 //

それぞれ何らかの善の蓄積によって、多くの生の最後に、すなわち最後の生において、知者は、この動不動の全て〔の世界〕はヴァースデーヴァに他ならない、と全てをアートマンと見ることで、私に帰依する、すなわち仕える。したがって、そのような偉大な者、すなわち見

識が限定されていない者は、非常に得難い。

<note>

1 janmanām BCGP] janmanā K. 2 jñānavān CP] jñānavān san BGK. 3 eveti BCGP] iti K.

11. 他の神格のバクタたちは輪廻する (7.20-23)

tad evaṃ kāmīno 'pi santaḥ kāmaprāptaye parameśvaraṃ mām¹ eva ye² bhajanti te kāmān prāpya śanair mucyanta ity uktam. ye tv atyantam rājasās tāmasās ca kāmābhibhūtāḥ kṣudradevatāḥ sevante te saṃsaranitīty āha – **kāmair** iti caturbhiḥ.³

そして以上のように、欲望を持つ者たちであったとしても、欲望の獲得のために最高神である私のみに仕える者たち、彼らは諸の欲望を得てから、次第に解脱する、と述べられた。しかし、絶対に、激質的であり暗質的である欲望に圧倒された、つまらない諸神格に奉仕する者たち、彼らは輪廻する、ということを、諸の欲望によって [など] という四 [偈] によって述べる。

kāmais tais tair hr̥tajñānāḥ prapadyante 'nyadevatāḥ /

taṃ taṃ niyamam āsthāya prakṛtyā niyatāḥ svayā // 20 //

それぞれの欲望によって知を奪われた者たちは、それぞれの決まり事に依拠して、自らの本性によって制約されて、他の諸神格に

帰依する．

ye tu⁴ **tais taiḥ** putrakīrtiśatrujayādiviṣayaiḥ **kāmair** apahṛtavivekāḥ santo
'nyāḥ kṣudrā bhūtapretayakṣādidevatā bhajanti. kiṃ kṛtvā. tattaddevatārādhane
yo yo **niyama** upavāsādilakṣaṇas **taṃ taṃ niyamaṃ** svīkṛtya. tatrāpi **svakīya-**
yā prakṛtyā pūrvābhyāsavāsanayā⁵ **niyatā** vaśīkṛtāḥ⁶ santo devatāviśeṣaṃ bha-
janti⁷ // 20 //

しかし、ある者たちは、それぞれの、すなわち息子・名声・敵への勝利などを対象とする諸の欲望によって識別〔知〕を奪われた者たちであって、他のつまらない、ブータ・プレータ・ヤクシャなどという諸神格に仕える．何を為してからか．それぞれの神格への崇拜における、断食などを特徴とするそれぞれの決まり事、そのそれぞれの決まり事を容認してからである．その場合でも、〔彼らは〕自分の本性によって、すなわち以前の繰り返しの潜勢力によって制約され、すなわち抑制され、特定の神格に仕える．

<note>

1 mām BCGK] om. P. 2 ye CGKP] om. B. 3 āha kāmair iti caturbhiḥ BGK
P] āha caturbhiḥ. kāmair iti C. 4 ye tu BCGK] om. P. 5 pūrvābhyāsa° BCG
P] pūrvabhyāsa° K. 6 vaśīkṛtāḥ CGKP] om. B. 7 devatāviśeṣaṃ bhajanti B
K] om. CGP.

yo yo yām yām tanuṃ bhaktaḥ śraddhayārcitum icchati /

tasya tasyācalāṃ śraddhāṃ tām eva vidadhāmy aham // 21 //

それぞれあるバクタが、それぞれある形体を信頼によって崇拝しようと望む場合、私は、[彼ら] それぞれの、[それぞれの形体を対象とする] 同じその信頼を不動のものにする。

yo yo yām yām iti.¹ teṣāṃ madhye² **yo yo bhakto yām yām tanuṃ** devatārūpāṃ madīyāṃ eva mūrṭiṃ **śraddhayārcitum icchati** pravartate **tasya tasya** bhaktasya tattanmūrtiviṣayāṃ **tām eva śraddhāṃ acalāṃ** dṛḍhāṃ **aham** antaryāmī **vidadhāmi** karomi // 21 //

それぞれある者が、それぞれあるものを [以下を註釈する]。彼らのなかで、それぞれあるバクタが、それぞれある形体、すなわち神格をあり方とする、他ならぬ私の現身を、信頼によって崇拝しようと望む、すなわち [崇拝することに対して] 発動する場合、私、すなわち内制者は、[彼ら] それぞれのバクタの、それぞれの現身を対象とする同じその信頼を、不動のもの、すなわち確固としたものにする、すなわち為す。

<note>

1 yo yo yām yām iti B] devatāviśeṣaṃ ye bhajanti teṣāṃ madhye yo yo yām iti GP, devatāviśeṣaṃ bhajanti teṣāṃ madhye yo yo yām iti C, yo yo yām iti K. 2 teṣāṃ madhye BK] om. CGP.

tataś ca –

またそれから、

sa tayā śraddhayā yuktaś tasyā rādhanaṁ tathā /

labhate ca tataḥ kāmān mayaiḥ vihitān hi tāt // 22 //

その信頼と結びついた彼は、彼（神格）を喜ばせることに努める。
そして実に、[彼は] それ（神格）から、他ならぬ私によって規定
された、それら諸の望みを得る。

sa tayeti. sa bhaktaś tayā śraddhayā śraddhayā tasyāś tanor ārādhanaṁ¹ tathā

karoti. tataś ca ye saṁkalpitāḥ² kāmān tāt kāmān³ tato devatāviśeṣaḥ labha-

te.⁴ kiṁ tu mayaiḥ tattaddevatāntaryāmiṇā vihitān nirmītaṁ. hi spṛṣṭam etat.

tattaddevatānām⁵ api madadhīnatvān manmūrtitvāc⁶ cety arthaḥ // 22 //

それと [結びついた] 彼は [以下を註釈する]. 彼, すなわちバクタは,
その確固とした信頼によって, その形体を喜ばせることに努める, す
なわち為す. そしてそれから, 望まれた諸の望み, それら諸の望みを,
それから, すなわち特定の神格から得る. むしろ, 他ならぬ私によっ
て, すなわちそれぞれの神格の内制者によって規定された, すなわち
作られた [それら諸の望み] を [ということである]. 実に, とは以上
のことが明らかである [ということである]. それぞれの諸神格も私に
依存しているから, また私の現身であるから, という意味である.

<note>

1 tanor ārādhanaṁ BCK] tano rādhanaṁ ārādhanaṁ G, tano rādhanaṁ P. 2

saṃkalpitāḥ BGKP] svasaṃkalpitāḥ C. 3 kāmān BCGP] om. K. 4 labhate B
CGP] labhante K. 5 etat tattad° KP] eva tattad° B, etattad° CG. 6 manmū-
rtitvāc GKP] mama mūrtitvāc BC.

tad evaṃ yady api sarvā api devatā mamaiva mūrtayo¹ 'tas tadārāḍhanam api
vastuto madārāḍhanam eva, tattatphaladātāpi cāham eva,² tathāpi³ sāksānma-
dbhaktānām ca teṣām ca⁴ phalavaīṣamyam bhavatīty āha – **antavat tv⁵ iti.**
そして以上のように、もしも、全ての神格が、他ならぬ私の現身であ
り、したがって、彼らへの崇拜であつても、実際には私への崇拜に他
ならず、また私こそがそれぞれの果報を与えるものであったとしても、
直接的な私のバクタたちと彼らには、果報に違いがある、ということ
を述べる。 しかし、有限であると。

antavat tu phalaṃ teṣām tad bhavaty alpamedhasām /

devān devayajo yānti madbhaktā yānti mām api // 23 //

しかし、僅かな知を持つ彼らのその果報は有限である。神々を祀
る者たちは、神々に赴く。また私のバクタたちは私に赴く。

alpamedhasām paricchinnaḍṛṣṭinām⁶ mayā dattam api **tat phalam antavat tu⁷**

vināśi **bhavatī.** tad evāha – devān yajanṭīti **devayajaḥ, te⁸ devān** antavato

yānti. madbhaktās tu mām anādyantaṃ paramānandaṃ prāpnuvanti // 23 //

僅かな知を持つ者たち，すなわち限られた見識を持つ者たちにとって、
私によって与えられていたとしても、 しかし、その果報は有限，すな

わち滅すものである。同じそのことを述べる。神々を祀るという意味で神々を祀る者たちであり、彼らは神々、すなわち有限なものたちに赴く。一方、私のバクタたちは、私に、すなわち無始無終の最高の歓喜に至る。

<note>

1 mūrtayo BCGP] mūrtavyo K. 2 tattatphaladātāpi cāham eva BCGK] aham eva ca tatra phaladātāpi P. 3 tathāpi BGK] tathāpi tu CP. 4 ca CGKP] om. B. 5 tv BCGP] om. K. 6 °dṛṣṭinām BCGP] °dṛṣṭinām K. 7 tu CGP] om. B. 8 devayajaḥ te BCGP] devayajante K.

12. どうして全生類がクリシュナ神にバクティを捧げないのか (7.24)

nanu ca samāne prayāse mahati ca phalaviśeṣe sati sarve 'pi kim iti devatānta-
raṃ¹ hitvā tvām eva na bhajanti. tatrāha – **avyaktam** iti.

【問】しかし、努力が等しく、かつ大きな果報の相違がある場合、全てのものも、どうして他の神格を捨てて貴方のみに仕えないのか。

【答】その点に関して答える。未顕現と。

avyaktaṃ vyaktim āpannaṃ manyante mām abuddhayaḥ /
paraṃ bhāvam ajānanto mamāvyayam anuttamam // 24 //

知性を持たない者たちは、私の、不変であり、至高である、最高

の状態を知らないので、未顕現である私を、顕現を得たものと見做す。

avyaktaṃ prapañcāṭitaṃ **mām vyaktiṃ** manuṣyamatsyakūrmādibhāvaṃ prāptam **alpabuddhayo manyante**. tatra hetuḥ – **mama paraṃ bhāvaṃ** svarūpam **ajānantaḥ**. kathambhūtam. **avyayaṃ** nityaṃ na vidyata **uttamo**² yasmāt taṃ **bhāvam**. ato jagadrakṣārthaṃ³ līlayāviṣkṛtanānāviśuddhorjitasattvamūrtiṃ mām parameśvaraṃ ca⁴ svakarmanirmitabhautikadehaṃ⁵ ca⁶ devatāntarasamaṃ⁷ paśyanto mandamatayo mām nātivādriyante,⁸ pratyuta kṣipraphaladam⁹ devatāntaram eva bhajanti. te cokatprakāreṇāntavat phalaṃ prāpunvantīty arthaḥ // 2 4 //

未顕現，すなわち現象世界を超えた私を，顕現，すなわち人間・魚・亀などの状態を得たものと，僅かな知性を持つ者たちは考える．その点に関する理由は「以下の通りである」．私の最高の状態，すなわち本質を知らないので，ということである．【問】[私の最高の状態とは]どのようなものか．【答】不変，すなわち常住であり，それよりも最上のものが存在しない，その状態である．したがって，世界を守護するために遊戯によって顕現した，様々で，清浄な，純質が優勢となった現身を持つ私を，最高神であり，また自身の行為によって作られた元素から成る身体を持つ他の神格と等しいものと見ているので愚かな理解を持つ者たちは，私を全く崇拝せず，他方で即席の果報を与える他の神格のみに仕える．また彼らは，上述のあり方で，有限な果報を獲得する，という意味である．

<note>

1 devatāntaraṃ CGKP] devāntaraṃ B. 2 uttamo BCGP] uttamo bhāve K. 3 jagadrakṣārthaṃ BCGP] jagadrakṣaṇārthaṃ K. 4 ca CGP] om. BK. 5 svakarma° BCGP] karma° K. 6 ca CGKP] om. B. 7 devatāntarasamaṃ BCK] devatāntaraṃ samaṃ GP. 8 nātīvādriyante BCGK] nādriyante P. 9 kṣipraphalaḥ GP] kṣipraphalaṃ BC.

13. 彼の神格のバクタたちの無知の原因（7.25-27）

teṣāṃ svājñāne hetum āha – **nāham** iti.

彼らの自身の無知に対する原因を述べる．私は……ないと．

nāham prakāśaḥ sarvasya yogamāyāsamāvṛtaḥ /

mūḍho 'yaṃ nābhijānāti loko mām ayaṃ avyayaṃ // 25 //

ヨーガという幻力に覆われた私は、全てのものにとって輝いていない．この迷った世界の人は、不生で不変である私を知らない．

sarvasya lokasya **nāham prakāśaḥ** prakāto na bhavāmi, kiṃ tu madbhaktānām eva. yato **yogamāyayā samāvṛtaḥ**. yogo yuktir madīyaḥ ko 'py acintya-prajñāvilāsaḥ.¹ sa eva māyāghaṭamānaghaṭanācāturyaṃ² anayā³ saṃchannaḥ. ata eva matsvarūpajñāne **mūḍhaḥ** sann **ayaṃ loko 'jaṃ avyayaṃ ca mām na jānāti**⁴ // 25 //

全ての世界の人にとって、私は輝いていない，すなわち明らかとなつ

ていない。そうではなくて、私のバクタたちのみにとって [私は輝いている]。なぜなら、ヨーガという幻力によって覆われているから。ヨーガとは手段であり、私のとある不可思議な知的な戯れである。それこそが幻力であり、実現し得ないことを実現する能力であり、これ（幻力）によって完全に覆われているということである。同じ理由で、私の本質を知ることに関して迷っているので、この世界の人は、不生で不変である私を知らない。

<note>

1 acintyaprajñā° BCGP] acintyaḥ prajñā° K. 2 °āghaṭamānaghaṭanācāturyaṁ C] °āghaṭamānaghaṭanāpaṭīyastvāt GPK, °āghaṭanaghaṭanācāturyaṁ K. 3 anayā CK] tayā KGP. 4 jñāti CGP] jñātīti BK.

sarvottamaṁ matsvarūpam ajānanta ity uktam. tad eva svasya sarvottamatvam anāvṛtajñānaśaktitvena darśayann anyeṣāṁ ajñānam evāha – **vedeti**.¹

全てのもののうちで至高な私の本質を知らないの、と述べられた。覆われていない知を能力とするので自身が全てのもののうちで至高であるという同じそのことを示しつつ、他者たちの無知こそを述べる。知っていると。

vedāhaṁ samatītāni vartamānāni cārjuna /

bhaviṣyāṇi ca bhūtāni mām tu veda na kaścana // 26 //

私は、過去・現在・未来のものを知っている。アルジュナよ。し

かし、如何なる者も私を知らない。

samatītāni vinaṣṭāni **vartamānāni** bhāvīni² **ca** trikālavartīni **bhūtāni** sthāvara-
jaṅgamāni sarvāṇy **ahaṃ veda** jānāmi. māyāśrayatvān mama tasyāḥ svāśraya-
vyāmohakatvābhāvād iti prasiddham. **māṃ tu na**³ ko 'pi vetti.⁴ manmāyāmohi-
tatvāt. prasiddham hi loka māyāyāḥ svāśrayādhīnatvam anyamohakatvaṃ ca⁵ //
26 //

諸の過去，すなわち諸の滅したものの，諸の現在，また諸の未来のもの
という三世に存在する諸のもの，すなわち植物（不動のもの）や動物
（動くもの）たちの全てを私は知っている，すなわち識っている．私
は幻力の拠所であるから，それ（幻力）は自らの拠所を欺くものでは
ないから，ということは周知されている．しかし，如何なる者も私を
知らない．私の幻力に惑わされているから．実に，世間において幻力
は自身の拠所に依存することと，他のものを惑わせることが周知され
ている．

<note>

1 vedeti BCGP] vedāham iti K. 2 bhāvīni BCK] ca bhviṣyāṇi ca bhāvīni G
P. 3 na BCGP] om. K. 4 vetti BCGP] na vetti K. 5 ca BCGP] ceti K.

tad evaṃ māyāviṣayatvena jīvanāṃ parameśvarājñānam uktam. tasyaivājñāna-
sya dṛḍhatve kāraṇam āha – **icchādveṣasamuttheneti**.¹

よって以上のように，幻力の対象であるので，諸の個我が最高神を知

らないことが述べられた。同じその無知が確固となることに対する原因を述べる。意欲と嫌悪から生じたと。

icchādveṣasamutthena dvandvamohena bhārata /

sarvabhūtāni saṃmohaṃ sarge yānti parantapa // 27 //

意欲と嫌悪から生じた一對の迷いによって、バラタの子孫よ、全てのものは、創出時に迷妄に赴く。敵を悩ます者（アルジュナ）よ。

srjyata iti **sargaḥ**. **sarge** sthūladehotpattau satyāṃ tadanukūla **icchā** tatpratikūle ca **dveṣaḥ**, tābhyāṃ **samutthaḥ** samudbhūto yaḥ śītoṣṇasukhaduḥkhādīdva-
ndvanimitto moho vivekabhraṃśaḥ, tena **sarvabhūtāni**² **saṃmohaṃ**,³ aham
eva sukhī duḥkhī ceti gāḍhataram abhiniveśaṃ prāpnuvanti. atas tāni majjñānā-
bhāvān na⁴ māṃ bhajantīti⁵ bhāvaḥ // 27 //

創出されるという意味で創出〔物〕である。創出時に、すなわち粗大な身体の生起があるときに、それ（粗大な身体）への好意がある場合に意欲があり、またそれ（粗大な身体）への不快感がある場合に嫌悪がある。それらから生じた、すなわち生起した、寒暑や楽苦などという一對のものを契機とする迷い、すなわち識別〔知〕の消失がある場合、それ（迷い）によって全てのものは迷妄に〔赴く〕。私こそが楽しんでおり、また苦しんでいる、と〔全てのものは〕より堅固に執着するに至る。したがって、それら（全てのもの）は私に対する知がないので、私に仕えない、ということである。

<note>

1 icchādveṣasamuttheneti BCGP] iccheti K. 2 sarvabhūtāni BCGP] sarvāni
bhūtāni K. 3 saṃmohaṃ CGP] saṃmohaṃ ca B, saṃmohaṃ yānti K. 4 na
BCGP] om. K. 5 bhajanṭīti BCGP] na bhajanṭīti K.

14. どのように最高神のバクタになるのか（7.28）

kutas tarhi¹ kecana tvām bhajanto dṛśyante. tatrāha – **yeṣām** iti.

【問】そうであれば、どうしてある者たちが貴方に仕えていることが
見られるのか。【答え】その点に関して答える。 ある者たちのと。

yeṣām tv antagataṃ pāpaṃ janānām puṇyakarmaṇām /

te dvandvamohanirmuktā bhajante mām dṛḍhavrataḥ // 28 //

しかし、それら良い行いを持つ者たちの罪惡が終わりに達した、
そのような者たちは一對の迷妄から解放され、堅固な誓戒を持つ
て私に仕える。

yeṣām tu puṇyācāraṇaśīlānām sarvaṃ² pratibandhakaṃ pāpaṃ antagataṃ
naṣṭaṃ te dvandvanimittena mohena nirmuktā³ dṛḍhavrataḥ ekāntinaḥ santo
mām bhajante // 28 //

しかし、良い行為を性向とする者たちの、全ての、障害要因である罪
惡が終わりに達した、すなわち消滅した、そのような者たちは一對の
ものを契機とする迷妄から解放され、堅固な誓戒を持つ者、すなわち

一者のみに専心する者となって、私に仕える。

<note>

1 tarhi BCGP] tahi K. 2 sarvaṃ BCGP] sarva K. 3 nirmuktā BCGP] vini-
rmuktāḥ K.

15. 最高神のバクタたちは解脱に達する (7.29)

evaṃ ca mām bhajantas te¹ sarvaṃ vijñeyaṃ vijñāya kṛtārthā bhavantīty āha –
jarāmaraṇeti.²

そして、以上のように私に仕えている彼らは、全ての知られるべきものを知ってから、目的を為した者となる、ということを述べる。老死と。

jarāmaraṇamokṣāya mām āśritya yatanti ye /

te brahma tad viduḥ kṛtsnam adhyātmaṃ karma cākhilam // 29 //

老死から解放されるため、私に帰依してから努力する者たち、彼らはそのブラフマンを、また全てのアートマンに関することを、また行為を残らず知る。

jarāmaraṇayor mokṣāya nirāsārthaṃ³ mām āśritya ye prayatante te tat para-
raṃ brahma viduḥ kṛtsnam adhyātmaṃ ca viduḥ. yena tat prāptavyaṃ taṃ
dehādīvyatiriktaṃ śuddham ātmānaṃ ca jñāntīty arthaḥ. tatsādhanabhūtaṃ⁴

akhilaṃ sarahasyaṃ karma ca jānanti⁵ // 29 //

老死から解放されるため，すなわち〔老死を〕排除するため，私に帰依してから努力する者たち，彼らはその最高のブラフマンを知る．また，全てのアートマンに関することを知る．それによってそれ（最高のブラフマン）が得られるべきであるような，そのような身体などと区別された純粋なものであり自身であるものを〔彼らは〕知る，という意味である．また〔彼らは〕その達成手段である全ての秘密である行為を知る．

<note>

1 te BCGK] om. P. 2 jarāmarāṇeti BCGP] jareti K. 3 mokṣāya nirāsārthaṃ GP] nirāsārthaṃ BC, nirasānārthaṃ K. 4 °sādhanaḥbhūtaṃ BGKP] °sādhanaḥbhūtaṃ C. 5 jānanti BCGP] jānantiṭy arthaḥ K.

16. 最高神のバクタたちにはヨーガからの脱落はない（7.30）

na caivambhūtānām yogabhraṃśaśaṅkāpīty āha – **sādhībhūtādhīdaivam** iti.¹

また，以上のような生類にとっては，ヨーガからの脱落の懸念さえもない，ということを述べる．被造物に関することと神格に関することと共にと．

sādhībhūtādhīdaivam mām sādhiyajñam ca ye viduḥ /

prayāṇakāle 'pi ca māṃ te vidur yuktacetasaḥ // 30 //

被造物に関することと神格に関することと共に私を知り、また祭式に関することと共に私 [を知る] 者たち、彼ら専心した者たちは逝去の時であっても、私を知る。

adhibhūtādisabdānām arthaṃ bhagavān² evānantarādhyāye³ vyākhyāsyati. a-
dhibhūtenādhidaivena ca saḥādhiyajñena ca sahitam ye⁴ māṃ jānanti⁵ te yu-
ktacetaso mayy āsaktamanasaḥ prayāṇakāle 'pi maraṇasamaye 'pi māṃ vidur
jānanti.⁶ na tu tadāpi vyākulībhūya māṃ vismaranti. ato madbhaktānām na yo-
gabhraṃśaśaṅkety arthaḥ⁷ // 30 //

被造物に関する等という諸の語の意味を、主自身が直後の章において解説するだろう。被造物に関することと神格に関することと共に、また祭式に関することと共に私を知る者たち、彼ら専心した者たち、すなわち私に思考器官を固定した者たちは、逝去の時であっても、すなわち死の時であっても、私を知る、すなわち識る。しかしその場合でも、混乱して私を忘れることはない。したがって、私のバクタたちにはヨーガからの脱落の懸念はない、という意味である。

<note>

1 sādhibhūtādhidaivam iti BCGP] sādhibhūtetī K. 2 bhagavān BCGP] śrī-bhagavān K. 3 evānantarādhyāye BCGP] evantarādhyāye K. 4 ye BCGP] om. K. 5 jānanti CGP] bhajanti B, ye jānanti K. 6 jānanti BCG] vijānanti K, om. P. 7 arthaḥ BCGP] bhāvaḥ K.

17. 結頌

kṛṣṇabhaktair ayatnena brahmajñānam avāpyate /

iti vijñānayogākhye saptame saṃprakāśitam //

クリシュナ [神] のバクタたちによって、努力なくブラフマンの
知が獲得されるということが、認識のヨーガと呼ばれる第七
[章] において示された。

iti subodhinyāṃ ṭikāyāṃ śrīdharasvāmiviracitāyāṃ¹ jñānavijñānayogo nāma²
saptamo 'dhyāyaḥ //

以上が、シュリーダラ・スヴァーミンによって著された『スボーディ
ニー』という註釈における「理論知と実践知のヨーガ」と呼ばれる第
七章である。

<note>

1 subodhinyāṃ ṭikāyāṃ śrīdharasvāmiviracitāyāṃ P] śrīdharasvāmiviracitā-
yāṃ subodhinyāṃ B, iti śrīmadbhagavadgītāyāḥ śrīdharasvāmiviracitāyāṃ
subodhinyāṃ ṭikāyāṃ C, śrīsubodhinyāṃ śrīdharasvāmiviracitāyāṃ ṭikāyāṃ
G, śrībhagavadgītāyāṃ svāmikṛtaṭikāyāṃ subodhinyāṃ K. 2 jñānavijñānayo-
go nāma CGKP] om. B.

参考文献

一次文献

- B *Srimadbhagavadgita with the Commentaries Śrīmadśāṅkarabhāṣya with Ānandagiri, Nīlakanṭhī, Bhāṣyotkarṣadīpikā of Dhanapati, Śrīdharī, Gītārthasaṃgraha of Abhinavaguptācārya, and Gūḍhārthadīpikā of Madhusūdana with Gūḍhārthatattvāloka of Śrīdharmadattaśarmā (Bhachchāśramā)*. Ed. by Wāsudev Laxmaṇ Shāstrī Paṇṣīkar. Bombay: Nirṇaya Sāgar Press 1936 (2nd Ed.).
- C *Śrīmad Bhagavad-Gītā: Text, Gloss, Translation of the Text and of the Gloss of Śrīdhara Swāmī*. Trans. by Swāmī Vireśwarānanda. Chennai: Sri Ramakrishna Math 2008.
- G *Srimad-Bhagavad-Geeta: Containing Eight Commentaries of Keshava Kashmiri Bhattacharya called Tattva-Prakashika, Madhu-Soodan Sarasvati called Goodhartha-Deepika, Shankaranand called Tatparya-Bodhini, Shreedhara Swami called Subodhini, Sadanand called Bhawa-Prakasha, Dhanapati Soori called Bhāṣyotkarsh-Deepika, Daivadnya Pandit Surya called Paramartha-Prapa, and Raghavendra called Artha-Samgraha Vol. 1-3*. Ed. by Shastri Jeevarama Lallurama, Mahadeva Gangadhar Bhakre and Dinker Vishnu Gokhale. Bombay: The Gujarati Printing Press 1912-1915.
- K *Śrīśrīmadbhagavadgītā: Śuddhabhaktiekarakṣaka-Jagadguru Śrī-Śrīla Śrīdharasvāmī-kṛta "Subodhinī"-īkā-sametā Śloka-marma-kathā-sāra-śikṣā-mūlānvayānuvāda-'Subodhinī'-bhāṣānuvāda-mūlānuvāda-tathya-paripraśnamālā-vividhasūcī-prabhṛtisahitā ca*. Ed. by Svadhāmagatamahāmhopadeśaka Śrīla Nārāyaṇadāsa Bhaktisudhākara Bhaktiśāstrī Prabhūṇa. Kolkātā: Gauḍīya Mīśana 2017 (5th Ed.).
- P *Vedavyāsapraṇītamahābhārataṅtargatā Śrīmadbhagavadgītā: Śrīmadhusūdanasarasvatīviracitayā Gūḍhārthadīpikākhyayā vyākhyayā, tathā Śrīdharasvāmīviracitā Subodhinīvyākhyayā vyākhyayā sametā*. Ed. by Kāśīnātha Śāstrī. (Ānandāśrama Sanskrit Series 45) Pune:

Ānandāśrama 1901.

二次文献

- Vireśvarānanda, Swāmī. trans., 2008. *Śrīmad Bhagavad-Gītā: Text, Gloss, Translation of the Text and of the Gloss of Śrīdhara Swāmī*. Chennai: Sri Ramakrishna Math. (= 刊本 C)
- 上村勝彦. 1992. 『バガヴァッド・ギーター』岩波文庫.
- 眞鍋智裕, 佐藤隆大, 大木舞. 2016. 「*Bhagavadgītā* シュリーダラ註試訳——*Bhagavadgītā* 第 11 章 1-25 偈」『論叢アジアの文化と思想』第 25 号: (1)-(25).
- 眞鍋智裕, 鈴木菜那, 松浦あかり. 2021. 「『スボーディニー』第六章試訳」『論叢アジアの文化と思想』第 30 号: 1-48. http://toutetsu.gakkaisv.org/tga/A30/v001-048_A30_2022.pdf.

[注]

(1) 前号に引き続き、梶野・田中両名を含め勉強会において訳語の提案等をしていただいた勉強会参加者諸氏に謝意を表する。序でも述べた通り、最終的な文責は眞鍋にあるため、誤訳等があった場合は、その責任は眞鍋にある。